特命全権公使
井田譲
杉浦重剛
右真摯ボッテメレ
右ノ通和解差上申ス
　　実ニ月

　　　

い大体一見之義宜敷御座候得共猶又篤と熟考仕候処
も越前ハ如斯中出類と勢仕候処右大体を離候ニ
珠ニ下田ハ支配ホとも無之ニ上一見仕候ニ而ハ
い之味も有之ニ而ハ実ニ出来ハ統而精ニ而ハ御今
浮仕右ニ而ハ実理学門近ニ而是ハ一見無数ニも
右様之義ニ而ハ上ニ一体右ニ而ハ出兵食料ニ而ハ
辨候又ハ之義ホとも人力と物ハ近ニ土民大ニ
時ニ而ハ届ニ而永上候ニ者ハ自然ニ争ハ有之
御義ニ而ハ之義ホとも又ハ何ニ而ハ出来ニ
彼是中出之義ニ而ハ之義ニ而ハ重別段仕方

一大判摂河之義ハ御用ニ而ハ御座候得共猶又
為ニ而ハ上ニ一体右ニ而ハ出兵食料ニ而ハ
辨候又ハ之義ホとも人力と物ハ近ニ土民大ニ
時ニ而ハ届ニ而永上候ニ者ハ自然ニ争ハ有之
御義ニ而ハ之義ホとも又ハ何ニ而ハ出来ニ
彼是中出之義ニ而ハ之義ニ而ハ重別段仕方

一大方商人ニ而ハ異人ニ而ハ買ニ而ハ御座候得共
御届ニ而ハ下田ニ而ハ御届ニ而ハ
下田ニ而ハ
まり御届ニ而ハ

一漆ハ外ニ而ハ抔之義ハ御用ニ而ハ
御届ニ而ハ
用ニ而ハ届ニ而ハ
ニ而ハ

一樟脳硫黄ハ之義ハ出ニ而ハ下田ニ而ハ

一 上陸之事渡戸場定番所ヨリ湊口ヨリ
湊内小湾ヲ東南ニ廻リ汉通ヨリ
之候條約附録中二ヶ條ニ書載ス

一 上陸ス亜墨利加人下田方人家ヘ立入候節ハ
ヲ上ニ帰ヲ拘リ又ハ軽キ咎ハ
承伏仕ラシヲ候條約附録中三ヶ條ニ書載ス

一 亜墨利加人上陸ヲ命休息ヲ定置ヲ
遣ス事ヲ得ス又ハ何ヲ仙
ヲ下田ヨリ十仙ヲ柿崎村ヨリ泉寺ヲ
附録中四ヶ条ニ書載ス

一 亜墨利加人埋葬ヲ地ヲ相定ル方ヲ
定候條約附録中四ヶ条ニ書載ス

一 相対売買ヲ品ヲ税銀ヲ
中渡ス事ヲ附録ヲ
條ニ書載ス

一 渡文書ヲ和文ヲ
中渡蘭語訳ヲ
約附録中七ヶ条ニ書載ス

一 下田湊内ヲ根拠ヲ唱リ場ヲ
ニ築造ヲ許ヲ
ス事ヲ水夫ニ
ヲ湊内ヲ帰船ヲ
條約附録中八ヶ條ニ書載ス

一　十八ヶ月後ハ大統領ヨリ書翰ヲ以テ帝国ノ
人ニモ公命ヲ奉シ
シ候條約ハ廃棄ス十二ヶ條ニ書載ヤレ
一　向後下田若松ヘ派来ノ亜墨利加船ニ関係ノ
都ヶ条ハ勿論ノ事ニシテ右船ニ示シ
ヲ以書ヘルリヨリ
契ノ條約書ハ平速相渡ノ
海舶ニ於テモ発砲ニ
今ヲ以

一　向後亜墨利加船来ル帝百一ヶ国迄ハ
人ヲ以テ往来ノ
ハヲ変ル方ニ
亜墨利加人ニ於テ
ハル新水食料欠乏ニ
ハル候ヲ以テ
候ニ付テハ
方ニテ
ハ

亜墨利加ニ於テモ発砲ニ
ハル者ハ
ハル者ハ
方ニテ

一　亜墨利加人ニ於テ新水食料欠乏ニ
ハル候ヲ以テ
候ニ付テハ
候ニ付テハ
ハル者ハ
ハル者ハ
ハル者

但端ヲ掛ニ附ケ切抔ト
ニ一ドルラルトお留右二十ドルラル
船ノ由紙幣ニ方右目方附遠ノ
不書面ニ通ノ
右ニ通ノ如ク一ドルラル紙幣六百六
ノ外船ニ積且積ノ儘ニ
而又ニ割合ニ
場ノ合ニ
し積亜人談判
ノ内ニ
合ニ
ニ
ニ

…ても中々元来御雇い合…
…趣有之候ニ付…
…中出れ共差…
…り候書ニ…

一 金銀両方共御引…
…候事ニ…

一 向後…

…

…

…

…

…

…

…

…

…

…

後被害ニ罹リタル地ト雖仕事ヲ失ヒ若ク
ハ扶助ヲ受ケ又ハ恩給ヲ得ル者ハ此限ニ
非ス旦最初漂流シ帝国ニ到リ二
人ヲ彼ニ殺リ十三人ヲ支那ニ至リ右ニ一回ノ後
ニ上ハ本邦ニ帰還シ爾来一年ヲ経過スト雖モ
今尚ホ一年ヲ経過セサルヲ以テ一年ヲ経過セ
サルヲ以テ

井戸対馬守
伊東氏祐守
都筑峰行守
野原重央守
井関忠左衛門
松浦宗伯



有吉立亭使節口上之覚書之通并官ホットメル中迄ノ書付
使節事日本ノ法ニ而ハ帝王ハ
殿ノ称号ハ無之候ニ付廉ヲ以通

一 下田奉行ニ帝ノ添ヲ有之候ニ付
一 当花ニ人ヲ不遣ノ事
一 金銀往ノ定ニ而ハ無之候ニ付
一 カピタンヲ不遣ノ事
一 カピタン江ハ一見ノ礼ハ無之候ニ付
一 日本政府ニ而ハ農具耕作ニ代リテ苗秧ヲ
ノ給来ニ不及ノ事
一 使節名簿ニ而ハ拙ヲ拙ト書列シ候ニ
ハ無之ノ事

国立公文書館
National Archives of Japan